

阪神港

COMPASS第2回試験実施

神戸港PC-18 規模広げ23日に開始

【関西】国土交通省近畿地方整備局と阪神国際港湾会社、神戸市港湾局は12日、阪神港（神戸港、大阪港）への新・港湾情報システム（COMPASS）導入に向け、第2回試験運用を23日から神戸港で開始すると発表しました。期間は9月3日まで、3月に実施した試験運用より参加店社数を増やし、一定期間にわたり試験を実施するなど規模を拡大する。

2回目の試験運用は前回と同じ神戸港PC-18の上組コンテナターミナルで行う。参加店社は海運貨物取扱事業者が5社、海上コンテナ運送事業者が10社。複数日かけて試験運用するなど、前回よりも実際の環境により近づけた。

今回の試験では、実際に実入り輸入コンテナ貨物を搬出する。その上でCOMPASS専用端末への予約情報配信やターミナル内行き先表示を含んだ事前予約制度の運用や、GPS（衛星利用測位システム）位置情報表示機能、ゲート前渋滞情報の表示機能を確認する。阪神港で導入を予定する同システムでは、海貨事業者による入力情報を基に、コンテナを搬出する陸送業者が配車を計画しドライバーに割り当て、ターミナルオペレーターがコンテナ（TOS）のコンテナ搬出可否情報も反映し、引き取り時のゲート前でのトラブルを未然に回避する。

搬出に際し、通関やデリバリーオーダー（D/O）といった可否情報を表示し可視化する。ドライバーに持たせる携帯端末には、こうした可否情報やゲート受付時の行き先などを表示、現在用いられているフラカードを代替しペーパーレス化も図る。

3月23日にPC-18で行った第1回試験では海貨業者1社と海コン業者



今回の試験では、実入りコンテナ貨物を搬出する（写真は3月に行われた第1回試験運用の様子）

2社が参加し、非営業コンテナとタミー貨物ターミナルを用い輸入実入りコンテナの搬出のシステム動作を検証した。今回は規模の拡大に加え、実際に営業コンテナを用いるなど、さらに踏み込んだ試験となる。

第1回試験では、トラブル

ツクのゲート内進入に一定の時間がかかる現行方式に対し、COMPASSではトラック運転手がゲート前でPSカードを提示し、警備員がハンドディスプレイで読み取り数秒で処理が完了するのを確認。コンテナの搬出もスムーズに完了した。